



温泉地とダイバーシティ 事例発表

草津温泉ホテルヴィレッジ
取締役 中澤牧子

草津温泉ホテルヴィレッジ

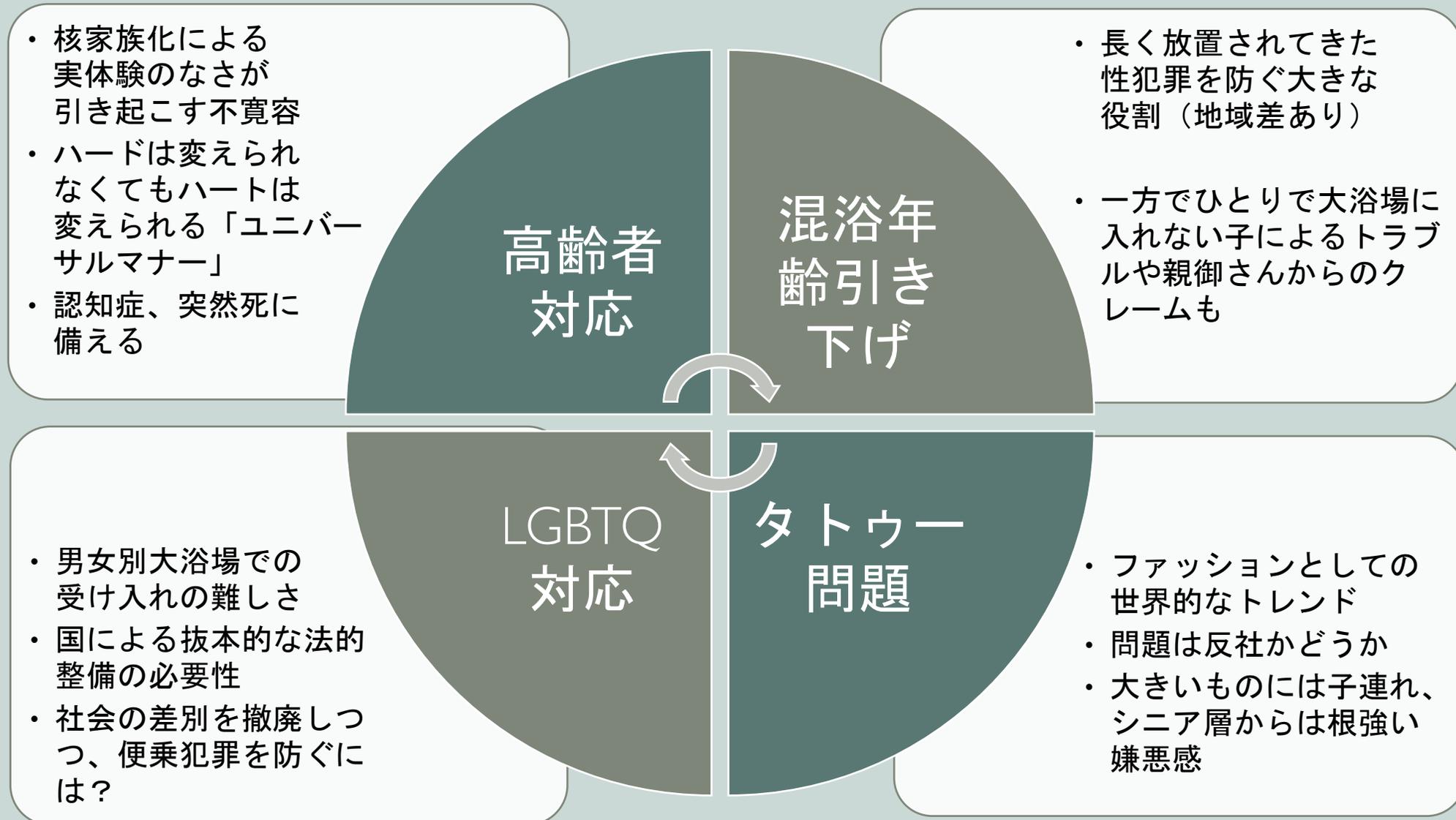


草津温泉ホテルヴィレッジはどんなホテル？

歴史	立地	客層	特徴	雇用
<ul style="list-style-type: none">◆江戸末期から続く旅館が約55年前に創業した草津温泉で初めてのリゾートホテル◆明治天皇の主治医ベルツ博士が叶えられなかった草津温泉での保養リゾートづくりを形にしたいという思いで始まった	<ul style="list-style-type: none">◆草津温泉の中心地「湯畑」からシャトルバスでたった5分だが、東京ドーム7個分ほどの敷地を、草津白根山の麓に広がる広大な国有林に囲まれているという、緑いっぱいの自然に囲まれた環境	<ul style="list-style-type: none">◆春秋は学生やシニア、夏や大型連休は3世代ファミリー中心、冬はスキー客など年間通じて季節ごとに客層が大きく変化する◆インバウンドは全体の約5%ほどでまだあまり多くない	<ul style="list-style-type: none">◆温水プール付き温泉施設テルメテルメを併設し、独自の温泉体験プログラムが楽しめる◆パターゴルフ、ボウリング、卓球、ツリートレッキング、森林浴散策など屋内外に様々なアミューズメントを用意	<ul style="list-style-type: none">◆ダイバーシティという言葉が日本で浸透するずっと前から、多国籍スタッフが長年共に働いてきた◆現在は日本含め約13か国、正社員・PA・派遣・研修生合計し約220～280名（うち約3割外国籍）



お客様のダイバーシティについて考える



職場環境のダイバーシティについて考える



- 雇用手続きやトラブルに対する慣れが重要
- 待遇は日本人と平等
- 休暇の取り方の自由度
- 地域コミュニティに溶け込んだ生活
- 相談できる関係性
- 質問や意思確認、指示は明確に

多国籍が
うまくい
くには？

- 日本語教育問題
- 文化や価値観の違いによる、仕事に対する認識のズレ
- 町の人口の1割以上を占める外国籍スタッフと地域コミュニティとの軋轢

多国籍で
抱える課
題

- ますます広がる世代間ギャップが職場教育に与える影響
- 権利の主張と、お互い様精神の欠如
- シニアの働き方問題

世代間
ギャップ
育児介護
問題

- 特別支援学校との連携
- 多様な人が大なり小なり力を持ち寄って職場を回す環境
- 増えるメンタル不調と精神障がい者雇用

様々な
障がい者
雇用



歩み入る者にやすらぎを
去りゆく人にしあわせを

草津温泉ホテルヴィレッジ社是（草津町町民憲章）





Thank you

株式会社中沢ヴィレッジ

取締役 中澤 牧子

n_makiko@hotelvillage.co.jp